

最先端を行く 液晶モニターメーカー モニターに関する相談はお任せあれ

東映通信工業

つなび

vol.3-10

東映通信工業(新宿区若松町、中島一夫社長、03・3359・3374)は、産業、工業用液晶モニター(特殊用途液晶モニター等)の開発・設計及び耐環境対応向け防塵防水モニター、船舶向けモニターを生産している。

昭和53年に大ブームとなり、誰もが知っているインベーターゲームの表示装置を生産した実績もある。当時は、大流行で生産が追いつかず、工場を新設したほど。現在でも大手アミューズメントメーカーのゲーム機器には、同社の液晶モニターが採用されている。

また、世界30の国と地域から多くの企業が参加した国内最大の国際海事展「SEA・JAPAN 2012」にも製品を出展、最新の高い技術力が認められ、海上自衛隊の艦艇用として、同社のモニターが採用されている。

現在、注目すべき新商品はデュアルウィンドウズ(商標登録中)という製品。両面タッチパネルを採



両面タッチパネルを採用した「デュアルウィンドウズ」

用したマルチコミュニケーションPCの開発により、平成23年12月には東京都の経営革新計画(23産労商支第818号)に承認されている。2つの画面に同じ内容を表示できることから、対面する相手と情報を共有しながらタッチ操作が可能であり、病院や図書館等の受付端末や教育現場等にも幅広く普及させていく方針である。同社は、市販の液晶モニターでは表示できない旧信号、特殊信号を表示できるようにした商品ラインナップを持ち、メンテナンス、修理もできる高い技術力を持っていることも強みである。

中島社長は、「旋盤機械等の工作機械に使用されている工作用モニターや、旧信号を使用しているアナログモニターでも当社の技術力なら、ほとんどが液晶モニターに組替えることが可能なので、まずはご相談いただきたい」と話す。



国際海事展「SEA・JAPAN2012」の出展風景